

	INF	REF	こども	電話	メール	中央計	行徳	BM	南行	信篤	平田	駅南	全館計
8月	788	572	595	5	5	1,965	1,732	44	265	132	156	624	4,918
9月	783	461	501	3	8	1,756	1,295	52	207	126	125	527	4,088
累計	5,318	3,254	3,576	73	53	12,274	9,262	305	1,363	854	806	3,553	28,417

📄 今月のレファレンス記録票から

分類

質問と内容

I/B0 行徳の「^{ごんげんみち}権現道」について知りたい。併せて、場所が分かる地図があると嬉しい。

『明解行徳の歴史大事典』（鈴木和明／著 文芸社 2005）p.110 に、「東金での鷹狩の際に本行徳地域内の徳川家康が通った道という（以下略）」と記載あり。また市川市公式 Web サイトの「文化・観光」の「その他文化情報」(<https://www.city.ichikawa.lg.jp/cul01/1111000205.html> 2021.9.4 確認)内に「権現道」の項目があり、「行徳街道の東側にほぼ並行して、本行徳一丁目の寺町通りから関ヶ島へと通ずる約1キロメートルの道が、権現道と呼ばれています（以下略）」と記載あり。併せて写真、及び場所が分かる地図も掲載されている。

I/C8 千葉街道（国道14号）と木下街道のぶつかった所に住んでいた中村勝五郎（1913-1993）について書かれた資料を見たい。

中村勝五郎は平成16年に市川市名誉市民の称号を受けており、『市川市名誉市民 平成16年度』（市川市 2004）に功績及び略歴が記載されている。また、『親子3代馬主80年』（中村勝五郎／著 中央競馬ピーアール・センター 1990）、『市川ひと事典 '92』（エピック 1991）p.94 に記載がある。また、市川市公式 Web サイトの「市川市名誉市民・市民栄誉賞」(<https://www.city.ichikawa.lg.jp/pla03/1111000006.html> 2021.10.4 確認)にも掲載されている。

070.2 江戸末期から明治時代までの新聞の歴史（瓦版、英字新聞、大新聞等の発行の経緯）がわかる本を知りたい。

『日本新聞通史 1861年-2000年』（春原昭彦／著 新泉社 2003）に、幕末から平成12年までの一年毎に当時の新聞記事を見ることで新聞の歴史が通覧できる。

『大衆新聞がつくる明治の<日本>』（山田俊治／著 日本放送出版協会 2002）に、「序章大衆新聞『読売新聞』の出現」というような明治時代の読売新聞についての記載が確認できる。

『明治新聞事始め <文明開化>のジャーナリズム』（興津要／著 大修館書店 1997）前半は明治時代の新聞の歴史について、後半は「新聞記事に見る開化期世相百話」と題して、新聞記事からみる文明開化の実態について記載されている。

他に、『江戸の瓦版 庶民を熱狂させたメディアの正体』（森田健司／著 洋泉社 2017）、『幕末明治新聞ことはじめ ジャーナリズムをつくった人びと』（奥武則／著 朝日新聞出版社 2016）、『文明開化の錦絵新聞 東京日々新聞・郵便報知新聞全作品』（千葉市美術館／編 国書刊行会 2008）などを紹介した。

364.0 ①諸外国の社会保障制度の内容が横断的にわかる資料
 ②諸外国の医療供給体制の内容が横断的にわかる資料
 ③学校教育での社会保障の取り上げ方がわかる資料が知りたい。

①諸外国の社会保障制度の内容が横断的にわかる資料として、厚生労働省発行の『世界の厚生労働 2019 (2018 年海外情勢報告)』に諸外国の社会保障施策が国別に整理された記載がある。なお、2020 年版は厚生労働省のホームページで公開されている。「厚生労働省 白書・年次報告書 2020 年 海外情勢報告」(<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kaigai/21/> 2021.10.24 確認)。

ほかに『社会保障の国際比較研究 制度再考にむけた学際的・政策科学的アプローチ』(西村周三, 京極高宣, 金子能宏/編著 ミネルヴァ書房 2014) などがある。

②諸外国の医療供給体制の内容が横断的にわかる資料として、日本・ドイツ・フランス・韓国・イギリス・オーストラリアの医療・介護提供体制を解説した『世界の病院・介護施設』(加藤智章/編 法律文化社 2020)を紹介した。p.176-179 に資料として各国比較表が掲載されている。

③学校教育での社会保障の取り上げ方がわかる資料として、『中学校学習指導要領 全文と改訂のピンポイント解説 平成 29 年版』(大杉昭英/編 明治図書出版 2017)「付章 幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」4.教育内容の主な改善事項 p.261 の「少子高齢化社会における社会保障の意義」などを紹介した。なお、同内容は文部科学省のホームページでも公開されている (https://www.mext.go.jp/content/1421692_1.pdf 2021.10.24 確認)。

602.1 2010 年頃の戸建て住宅、特に建売住宅について、どんなメーカーやブランドの住宅がよく売っていたのかを記した資料はあるか。

『日経業界地図 2012 年版』(日本経済新聞社/編・発行 2011) p.196 の「住宅」の章に戸建て住宅会社の業界動向の記述あり、p.197 は、大手 10 社の販売戸数(2010 年度・戸建て)の表が記載されている。

また、『会社四季報業界地図 2012 年版』(東洋経済新報社/編・発行 2011) p.146 にも「戸建て住宅」の章があり紹介した。

795 ①正倉院宝物の一つである「^{もくがしたんのききょく}木画紫檀碁局」という碁碁の碁盤を過去に正倉院から持ち出した歴史上の人物を知りたい。

『正倉院の謎』(由水常雄/著 中央公論社 1987) p.145 に、①鳥羽法皇の開封について「宝物の中、聖武天皇の王冠及び鞍、御被、枕、碁局、(中略)、侍臣等がこれを運び置く。」(『本朝世紀』)と記載がある。

次に、p.161 に、②足利義教の開封について「義教は春日神社に詣でた帰り、正倉院を開封させて宝物をみたが、このとき、碁石の黒を二つと赤を一つ、沈香を二片二寸ばかり召された」とあり(『満濟准后日記』)とあり、碁盤ではないが碁石の持ち出しについて記載がある。

また、p.168 に、③織田信長の開封について「北の倉を探したところ口径一尺、長さ四尺ばかりの香があり、碁碁盤と一緒に入っていた。寺の三人がついて、多門山へもっていった。」(『天正截香記』)と記載がある。

なお、『碁碁の文化誌』(水口藤雄/著 日本棋院 2001) p.62 の 18「正倉院の碁盤の謎」の箇所によると、正倉院には木画紫檀碁局のほかに^{くわきもくがのききょく}桑木木画碁局と称する碁盤が二面存在するとあるが、『正倉院の謎』に記載されている碁盤がどちらの碁盤であるかは確認できなかった。

②織田信長が木画紫檀碁局を拝借したという記述があるそうだが、その記述の原資料名と該当部分の原文を教えてください。

小澤一徳,増田忠彦/著 「日本古代の碁碁史に関わる文献資料リスト」(『大阪商業大学アミューズメント産業研究所紀要』20号 2018年.277-315) のp.293に『天正二年截香記(1574 年東大持記録)』(信長の蘭奢待截取の始末記。碁盤を一時持ち出してあとで返した、と読めるが、碁石も一緒に持ち出したものか)との記載がある。この論文はインターネットでも閲覧することが可能。またこの紀要は国立国会図書館に所蔵がある。

なお、『天正二年截香記(1574 年東大持記録)』の原文は、『続々群書類従 第 16 雑部』(国書刊行会/編 続群書類従完成会 1978) の p.50-55 に掲載されている。